



《「遊佐刺し子」文様かき落とし》(部分) 土門 邦勝

土門 邦勝 展

— 伝承文化「遊佐刺し子」と 現代美術の融合 —

令和8年

7月24日(金)～9月1日(火)

最上川美術館 企画展示室

土門邦勝 ギャラリートーク

◆日時／7月26日(日) 午後1時30分～

◆場所／最上川美術館 企画展示室

◆参加費／入館料のみ

◆申込／不要

《「遊佐刺し子」文様象嵌》

土門 邦勝



最上川美術館
真下慶治記念館

【開館時間】

午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

【休館日】水曜日

【入館料】大人300円 高校生以下無料

障がい者手帳をお持ちの方と
付き添いの方1名 各150円

賛助出品

土門 玲子・「遊佐刺し子」作家



《庄内砂丘の風紋(遊佐町)》土門 邦勝



《雪の木》土門 玲子

遊佐刺し子の刺し方教室

◆講師／LLP遊佐刺し子ギルド

(土門玲子、池田ちあ、桜庭あい子)

◆日時／8月1日(土) 午前10時～午後4時

8月2日(日) 午前10時～午後3時

◆参加費／1,500円(このほかに別途入館料)

お申込みはお電話または
こちらの申込フォームから



最上川美術館

〒995-0054 山形県村山市大学大津1084-1 TEL 0237-52-3195

土門 邦勝 展

— 伝承文化「遊佐刺し子」と現代美術の融合 —

賛助出品 土門 玲子・「遊佐刺し子」作家

遊佐町出身の現代美術家・土門邦勝氏の表現は陶芸、彫刻、写真と多岐にわたる。その原点は庄内砂丘の風紋にある。今回、遊佐刺し子作家の土門玲子氏との手仕事との融合は、故郷への回帰とも言える作品展である。



最上川美術館
真下慶治記念館

館長 西塚 裕樹



伝承文化「遊佐刺し子」と現代美術の融合

「遊佐刺し子」を見たとき、粘土を素材にした象嵌の表現が閃いた。気の遠くなるような細かい文様を彫っていくと、まさに単純な繰り返しの行為の集積で、今までの自分の作品作りの原点に他ならないものだった。極めて根気のいる無意識に近い作業となるが、出来上がるにつれ、達成感も湧いてくるし、充実感も付随してくる。この達成感、充実感こそ、伝承によって連綿と受け継がれてきた刺し子の原点ではないだろうか。

数年前から磁土の素材感の魅力に惹かれ、磁土を使っているが、水分の混合具合で、泥の流体から、可塑性に富んだ素材、日干し煉瓦の固体、空中を漂う粉体等に姿を変え、さらに、高温焼成によって石へと変化するが、このように多様な変化をする素材は少ない。特に、磁土を高温焼成したときの透光性には心ときめくものがある。



《大雪山・旭岳のシュカブラ》 土門 邦勝

「風の可視化」 写真による表現

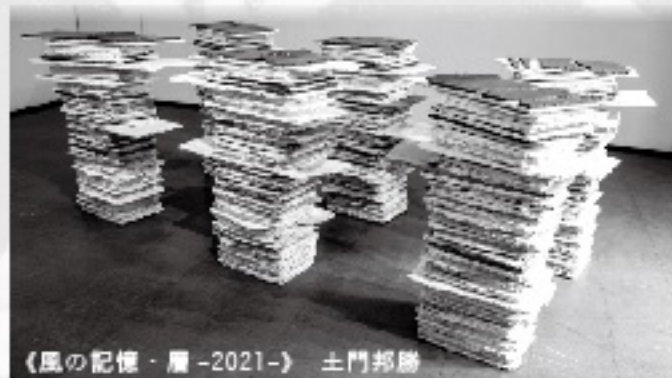
自然現象としての「風」の可視化をここ数年試みてきたが、目に見えないモノを可視化する手段として、雪と砂を媒体にして撮ってきたが、雪と砂の質の違いによって可視化された「風」に、自然界における類い稀な造形を見た。



《山形蔵王のシュカブラ》 土門 邦勝

土門 邦勝 略歴

- 1945年 山形県遊佐町生まれ
- 1981年 第6回日本陶芸展
外務大臣賞受賞
- 1984年 現代彫刻国際シンポジウム
1984-琵琶湖現代彫刻展—
- 1986年 現代日本陶芸展
(エバーソンミュージアム・アメリカ・東欧諸国巡回展)
- 1987年 現代の陶芸Ⅲ—いま、やきものの色に心ときめくか—
(山口県立美術館)
- 1989年 ヘンリー・ムーア大賞展優秀模型作品展(彫刻の森美術館)
- 1990年 倉敷まちかどの彫刻展(倉敷市立美術館)
サントリー美術館大賞展'90(サントリー美術館)
- 1992年 現代陶芸国際激請展(台北国立歴史博物館・台湾)
- 1993年 現代の陶芸(愛知県美術館)
現代陶芸うつわ考(埼玉県立近代美術館)
- 2019年 宮城県芸術選奨・美術(彫刻)受賞
- 2025年 伝承文化「遊佐刺し子」と現代美術の融合
(遊佐町稲川まちづくりセンター)
- その他 個展多数



《風の記憶・層-2021-》 土門邦勝



《遊佐刺し子百文様比翼》(部分)

LLP遊佐刺し子ギルド、遊佐刺し子スクール

◆ LLP遊佐刺し子ギルド ◆

「遊佐刺し子とその歴史」研究会の史料収集を基に定期的に教室を開き、生徒たちの育成に力を注いでいます。また遊佐刺し子の魅力を伝えるべく県内、国内外で展覧会を開催しています。